

報道関係者各位
プレスリリース

2010年2月吉日
丸や呉服店 谷加奈子
電話：03-3731-4189
携帯：09039637680

E-mail：info@kimono-maruya.com

昭和の美 華麗なる御召ふたたび

伝統技術を駆使した、昭和30年代の御召の復刻が完成

明治～昭和の希少な裂地1400点を蒐集した「谷博義コレクション」も
国内初公開

概要

御召（おめし）が最盛期であった昭和30年代のトップモードを、日本染織の伝統技術を駆使して復刻しました。「東の銘仙、西の御召」と言われるほど、御召は着物の代表的な存在でした。その御召の復刻に向け、高齢化により失われつつある伝統技術を再結成し、最高潮と言われる当時の技術再現に挑みました。また、この度の復刻を可能にした「谷博義コレクション」からも、当時の裂地30点を国内初公開します。

企画のねらい～昭和から平成のトップモードへ

谷博義コレクションは、丸や呉服店（東京都大田区西蒲田 7-48-7 社長・谷加笑子）創業者「谷博義」が、長い歴史と伝統を持つ絹織物を後世に残していかなければいけないと考え、昭和28年から、絹織物・染加工品の裂地を1400枚余り蒐集したものです。

通常、歴史的裂地は小布がほとんどですが、当コレクションは、後世に伝えることを目的としていたため、研究材料として復刻可能な裂地の大きさがあり、内容も天災や戦禍により失われた作品、滅びつつある民芸品を含み、明治・大正時代と昭和時代を産地別・用

途別に分けており、織物を伝承するための貴重な資料といえます。特に織物が最盛期だった昭和 30 年代の「御召」は、絹織物技術の最高潮であり、その代表的産地である桐生（群馬県）、十日町（新潟県）、西陣（京都府）、それぞれの特徴をもった裂地蒐集です。

今回、創業 290 年の歴史を持つ御召の榊矢代仁（京都市中京区室町通二条南入蛸薬師町 272-2）のお力添えにより、そのコレクションの中から、最高の絹織物の技術を凝らして作られた昭和 30 年代の「御召」を 9 点復刻しました。復刻した「御召」は、高齢化によりこの貴重なコレクションを分析できる最後の職人たちの伝統技術を再結成し織られたもので、現在では日本染織の最高技術の織物です。

この展示会では、「復刻御召」という形を通して、最盛期の着物の流行と織物技術の最高潮のありようを振り返ることのできる貴重な機会となっています。日本染織の伝統技術を同じく受け継ぐ友禅・日本刺繍・絞り・綴れ織・西陣織・押し絵の帯をコーディネートすることによって、失われつつある日本の伝統技術、日本の美を引き継ぎ、平成のトップモードとしてこれからの世代に伝えていくことを目的としております。

- 展示品 昭和 30 年代の御召裂布を中心に 30 点
復刻御召 9 点
現代の御召 20 点を展示予定
京絞り帯・日本刺繍帯・綴帯・西陣織・友禅染め帯・押し絵帯

● 日時 平成 22 年 3 月 12 日(金)～14 日(日) 午前 11 時～19 時

● 場所 銀座 清月堂画廊 1 階（東京都中央区銀座 5-9-15）



※東京メトロ銀座 A5 出口より徒歩 2 分

● 入場料 無料

●主催・連絡先 丸や呉服店 担当 谷加奈子

住所：大田区西蒲田 7-48-7

電話：03-3731-4189 携帯 09039637680

ホームページ <http://www.kimono-maruya.com>

E-mail：info@kimono-maruya.com

大正 15 年 3 月 1 日、府下茨原郡蒲田町御園 261 番地に故谷博義が創業。

今年で創業 85 年を迎える。

今回復刻したコレクション昭和 30 年代の御召裂布、国内初公開



昭和 27 年の御召裂布と復刻御召



当時のハイレベルな織り技術が見て取れます



昭和のトップモードは、緯糸のセンスが光ります



昭和 30 年代の御召の特徴がよくわかります



(補足記事)

御召とは

「御召」とは、「御召縮緬」の略であり、「先染め縮緬」とも呼ばれています。糸は、生糸を数本束ねて撚（より：ねじり）を掛け、糊で固めたものを使います。糸を先に染めてから織り、後で糊を落として（精練）シボをだしている織物です。「御召」は、生糸で織られているので紬のような硬さがないのが特徴です。

御召の始まりと由来

御召縮緬の起源となった柳条縮緬は、天正年間（1573～1592）に中国の織工が和泉の堺（現在の大阪府堺市）へ渡来して技術を伝え、それ以来国産されるようになりました。その高級な質感から、貴族や武将に大変好まれていたようです。江戸時代に入り、徳川 11 代将軍家斉〔いえなり〕がこれを好んで着用し、「徳川家の着物（御召料）」としたことから「高貴な方の御召物」を略して「御召」という名がついたと言われています。庶民の間では、11 代将軍家斉の愛用着であった御召は、晴れ着として着用されるようになりました。現在でも、「東の銘仙、西の御召」と言われるように、御召は着物の代表とされています。大正、昭和初期の日本を代表する画家が描いた美人画には、御召を着た女性の姿が多く描かれています。現在でも御召は、格式や年齢にとらわれず多くの人々を魅了し続けています。

復刻御召推薦文

「御召」讚

ご縁を戴いて谷博義氏蒐集の「和服絹織物裂地」の一部を矢代仁さんの資料室で拝見させていただく機会を得た。

どれをとっても驚愕の興奮であった。

個別に紹介したい誘惑をなんとか抑えて客観的に表現しようと思うのだが、磨き上げられたデザインの一つ一つがその時代の空気を写し取りつつ時代を超えて私の脳裏に這い上がってくる。

どんなにその時代に評価された美でも古くなり気が抜けては、生気に満ち満ちた今日には受け入れられ得ない。

大量に生産されたであろう御召の中から選択した谷博義氏というお方の慧眼にひたすら敬服する。

私も着物を織っており、時には着物を着る事を楽しんでいるが、常々一番の関心事は色と布の風合いである。

「御召」の風合いが好きで関心が積年止まなかった。

この「御召」地の一見当たり前さ、あるいは退屈さはそれこそこの生地の魅力に他ならない。美しさと使いやすさの追求の執念が、精緻な技術を内包して工夫を凝らし磨き上げた。滅びゆく日本の着物姿や振る舞いの深遠さ。それは「御召」に敵うものはないと思う。今日、着物という見せ場になずんだ眼を「御召」に移した時、それは明らかになるのではないだろうか？

染織家 大口 キミヨ

● 協力

- ・ **㈱矢代仁**：京都市中京区室町通二条南入蛸薬師町 272-2

TEL (075)211-2421 FAX (075)211-2428 ホームページ <http://www.yashironi.co.jp/>
創業享保5年（1720）、創業290年。現在地に初代誉田屋庄兵衛が呉服商として店舗を構える。当時は、西陣織着尺・白亀綾縮緬（宮中・将軍家の絹肌着）・ビロードを主に扱っていき、明治35年、西陣に織物工場建設。昭和2年、東京店開設。西陣御召を専門にしつつ、戦後は時代のニーズに対応し伝統を生かした友禅染にも着手。現在は西陣御召を用いたバッグや草履など新商品開発にも熱心に取り組んでいます。

- ・ **(有)京絞り寺田**：京都市下京区新町通綾小路下ル船鉾町 391

TEL (075)353-0535 FAX (075)353-0536

文化10年(1813)初代 井筒屋治助 京都寺町仏光寺にて 木版彫刻美術出版業創業
大正12年に六代寺田熊太郎が京鹿の子絞り製造卸として寺田商店設立
パリ市バカテル城美術館にて個展、京都泉湧寺「ピエール・カルダン40年の歩み展」
出展、山辺知之監修「京都近代染織展」出品、勅使河原宏創作「草に月」作成、
パリ国立ギメ美術館「雲に萩」を購入、京都絞工業組合理事として、京絞りの後継者
作りにも取り組んでいます。

- ・ **服部綴工房**：京都府京都市北区平野 桜木町 36-2
 TEL & FAX (075) 463-0729
 創業天明八年(1788)、服部機業店（現、服部織物株）より、父、服部實独立。以後、「帯の服部」の制作信念のもとに、全国呉服小売店、百貨店などで、お客様の要望に合わせた誂えでの爪織つづれの「帯、袱紗、装飾品」の制作に努め、一方、綴の概念を超えた、独創的な作品を個展の形で発表して現在にいたる。
- ・ **アトリエ森繡・森康次**：京都市北区上賀茂中大路町 11-4
 TEL & FAX (075)-701-8629 ホームページ <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/morinui/>
 家業は「ぬい屋」と呼ばれる刺繡業。15歳から家業に従事。20歳の時、和装デザイナー 松尾馨氏に師事。日展画家 桑野むつこ氏に師事し、26歳に写生と水彩画を習う。29歳から公募展出品。平成元年、日本工芸会正会員の認定。現在、内弟子の育成、大原和服専門学園で日本刺繡の講義を受け持ち、後継者育成に貢献している。
- ・ **西陣坐佐織・佐竹司吉**：京都市北区紫野 西藤ノ森町 12-20
 TEL (075)441-3007
 昭和45年、家業西陣織の創作活動を始める。武者小路千家監修による「家元好み」帯地製織。平成の名品に選出。「奉書紬」復刻。パリコレに出品。現在、石川県加賀市山中にある佐織の工場では、何とか桑の栽培を広めたいと「21世紀桑の会」を立ち上げ、国産の絹を守る運動も行い、新しい技術の開発と同時に、先人の残した素晴らしい帯の復刻にも力を入れています。
- ・ **京友禅作家・木戸源生**：京都市右京区嵯峨天龍寺瀬戸川町 20-10-208
 TEL & FAX (075)-881-1166
 1969年 京都の染匠に入門、染色全般を学ぶ。1992年 独立後、京都彩芸美術協同組合に入会、作家活動に入る。各種の賞を受賞し、現在、(社)日本染織作家協会 正会員・理事、京都彩芸美術協同組合所属・無審査・理事、経済産業大臣認定 「伝統工芸士」京友禅として活躍している。
- ・ **Tamao's Collection・大富玉緒**：東京都世田谷区代沢 5-13-10
 TEL & FAX (03)-5430-8082 ホームページ <http://www.tamawo.com/index.html>
 1998年、日本の伝統美、西陣織（正絹）を使ったテディベアを発表（意匠登録）。和と洋の融合をテーマに作品を展開。独自のコレクション『TAMAOS COLLECTION』を設立。その後、国内100店舗以上、海外約10店舗を誇る和菓子店、源吉兆庵様と企画契約を結び、オリジナル和の小物品の企画開発を行う。2004年には、英国王室エドワード王子に西陣ベアを進呈。梨園（七世中村芝雀）の妻として多忙な日々を送る傍ら、年間を通して源吉兆庵銀座店において、個展・教室を開催、現在にいたる。